

視 察 報 告 書

報告者氏名 矢口 輝美
鈴木 ゆうすけ

1 会派名

流政会

2 参加者

矢口 輝美・鈴木 ゆうすけ(計2名)

3 期間

令和6年1月24日(水)
午後1:30—午後3:00

4 視察地及び調査事項

埼玉県児玉郡上里町 上里町役場
「上里町情報化推進基本計画」について

5 所感等

(1)主な説明者

- 一般社団法人 上里町文化振興会 事務局長 岩崎賢二 氏
- 上里町役場 総合政策課 情報システム戦略係 主査 野崎洋平 氏

(2)上里町の概要

- 面積**29.18**km² ■人口 **29,949** 人(令和5年8月19日現在)

(3)目的

●令和7年度から12年度の流山市の情報化推進計画の策定の前に、先進事例として令和2年9月に策定され、流山市でも実装に向けて体制を整えている上里町情報化推進基本計画の中で進められたDX推進責任者(旧ICT推進リーダー)の運用について。またその他の計画や現在までの進捗や成果を振り返り、幅広く知見をご共有いただく事を目的とし、前回の視察から更に進んだ同市のDX推進体制の整備について学ぶ。

(4)所感

●今回の研修では同日に流山市市役所職員の上里町役場視察日程と合っていたため、専門部署の職員から更に踏み込んだ内容になった。

具体的には標準化に向けたシステムの構築に関して、前回の上里町視察から持ち帰った知見を元に導入の決まったLoGoチャットの導入時の流れや運用方法について、DX推進リーダー(ICT推進リーダー)の運用方法と効果的活用方法についてなど。

研修会場に同席したのは情報政策課課長、課長補佐、係長、議会事務局宿南主事。それぞれが担当課の課題についてなど質疑を行い有意義な議論が交わされ、上里町職員のご厚意もあり視察時間を大幅に延長させて頂き、主に質疑応答だけで2時間ほどのお時間を頂戴する事になり、前回の視察に続きご対応いただいた職員への多大なる感謝をここに記させていただきます。

私たち議員2名の焦点は前回議員視察で持ち帰った所から、流山市での一般質問を行い導入に向けて進めている最中であるDX推進リーダーとLoGoチャット導入に関して。

まずLoGoチャットの運用に関して、導入にあたって様々な規定を設けるなど準備を行い使用を開始したとのことで、この部分に関しては非常に参考になった。そして今後流山でも導入する際に気になっていたことが、既存のグループウェアのチャット機能を使用している場合に、それを使用している職員もツールを移行し職員全員に使用してもらえるのかという点。これは導入にあたりチャット専用のシステムで料金も発生するため、様々な機能を持つグループウェアと違って、LoGoチャットのようなチャットのみの特化したツールの場合、チャットを使ってもらえなければ無駄な経費になってしまう可能性があるからである。そして流山市では現在グループウェアのチャット機能とLoGoチャットの併用を考えていると担当課から回答があったのである。上里町も同様の環境でLoGoチャットの運用を開始したとのことだったので、どのように現在の運用がなされているか尋ねたところ、LoGoチャットへの完全移行を行ったとのことであった。その方法が、職員へは通達のみを行い、事務的に移行作業を行い、グループウェアのチャット機能を停止させたとのことだった。

この潔さには本当に驚き、もちろんいくらかの反対意見があったかもしれないが、まず協議する組織体をしっかりと持っており、その組織が、組織のために有益である。またはメリットのほうが大きいと判断した時にはその取り組みを決断し、断行できる人間がいて、組織として機能している点です。

組織というものは往々にして極度に反発を恐れることが多いと感じるが、本来であれば組織というものが時代の流れに適応し効率化されていかなければいけない。変化しなければいけない時になかなか変われず手遅れになったり、典型的なのがいままでFAXがあるような時代遅れの組織になってしまうことがあげられると思う。

しかし行政の場合は組織を改革して効率性を上げていくという行為は市民生活を支える、また税金で運営している自治体としてとてもウェイトの大きな課題でありそれを追求していく責任があると考える上で、このような決断し変化できる組織まで醸成されている事に強い衝撃を受けた。良い意味で人の顔色を伺いすぎず、正しいと思われることを強い決意を持って進めていく人間を育てること、そういった人材教育の重要性も同時に感じる事ができた。

次にDX推進リーダーに関して、DX推進リーダーは2023年9月定例会で矢口議員が提案し導入に向けて調整中であるが、実際にDX推進リーダーにある程度のリテラシーと発言力を持たせなければ形だけのものになってしまう危険性があるため、現段階で上里町の情報政策の部会や、円滑にDXを受け入れられるような庁内全体の風土作りについて尋ねた。

DXを推進するための組織体制から、上里町では町長自らが指揮を執る「行財政改革推進本部」、2つ目に「情報化推進委員会」、3つ目に取り組み目標単位で構成される「DX推進リーダー検討部会」があり、上流から下流まで、それぞれが機能しやすい形で1本の串が通った組織が用意されており、課の課題抽出から改革改善までの工程に強い権限を持たせることも可能になっている。これは上里町の町長、幹部職員が強いコミットメントを持ち全庁的にDX推進に取り組むこと。また、管理部門である総務課・総合政策課が連携を取り、DX推進における司令塔的役割と責任を果たすことを明記しており、DXを進める風土を組織のトップ層から作っている点が非常に大きいと感じました。

DX推進リーダーに関して、流山でも運用を予定しているが、実際にどのような部会の活動があるのかなど、より具体的で踏み込んだ回答を頂くことができた。

現在の課題感としては、「担当課でのデジタル関連の情報・研修不足感によるDX移行のハードル」と、「全庁的な情報化推進計画を所管する情報政策・改革改善課の方のデジタル関連の知識やスキルがあるが、全ての課の仕事に精通しているわけではない」という事で、これは現在では人の体は一つであるので当然なのだが全職員がデジタル関連知識と共に全ての課の仕事に精通している状態を作るとするのは現在の寿命では無理な話で、例えば国のトップ・県のトップ、

または市長が「DXを進めなさい！」と命令をしたとしても、デジタル分野にも担当課の仕事にも精通していて、更にシステム変更権限まで有する。といった複数の条件を満たす人材の用意が難しく、結果、どう進めればいいのかわからない。というのが実情に近いと思われる。この課題を打破するために設計されたのがこのDX推進リーダーであり、プログラミングのスキルなどは問わず、IT関連のリテラシーと理解が一定あり変化に柔軟な職員を各課から出してもらい、部会に出席してもらう。そこでまず行われるのが課の課題と思われる事柄を抽出することから始まる。

当たり前といえば当たり前の話なのだが、これは他の自治体の先進事例や新しいシステムの開発が行われたのを知った時に起こりやすいのが、内容や仕様がわかっていないが便利そうだからこれにしたい、またはこれを流山市でも行えないかといった発想だが、スタートとして考える必要があるのが「システムを導入することではなく、まず業務がどうあるべきか考えること」と上里町の計画でも明記されており、順番として現場からの課題抽出から始まり、それをどのように解決するのか、手段やツールの模索へ移行し、良いものが見つかれば試験導入などを行い、実装に向かっていく。という現実的な順路を理解してから進めていくという事。それもすべてデジタル人材育成プランの中に入っており、そしてこういった人材の育成のために全職員へのデジタル関連の研修を推奨しており、更にデジタルに理解を示し、DXを進めていける人材を評価する制度を整えるため、現在も人材育成課や財政部との連携を含め進めているとのことでした。

こういった努力によって成長していく人材を育成・評価する環境を整えることこそDXリーダーを始めるにあたって用意すべき環境で、流山市に当てはめた場合、仮にDX推進リーダーの運用開始が令和7年度情報化推進計画改定年度からだとすると、令和6年度中に提案し、環境を整える必要があると感じました。

今回上里町へは2度目の視察でしたが、半年の間にまだまだ変化が続いており、改革改善が日進月歩で進んでいると感じ、変わらないことへの危機意識を強く感じるとともに、模範となる先進自治体とその職員の方々とのこのような研修などによる交流によって、流山市の行財政改革もより進んでいくようこの先も学び行政職員含む流山市民の税金の有効な使われ方と市民サービスの向上へ生かしていきたいと思いました。